

「次の仙台」をどう創るか——文化力、人材育成・：



たかはし・まさのり
1976年横浜市生まれ。48歳。
慶應義塾大学法学部卒業。日産自動車(株)入社、広告宣伝部に。ティアナ(セダン)フルモデルチェンジ広告制作などを担当。(公社)日本アドバタイザーズ協会の広告論文金賞受賞。M C-Japan/A & O事業戦略室主担。商品企画、経営企画、事業管理にも携わり、GT-R/フェアレディZ/NISMO商品企画のほか、車の移動会議室実証実験や日本初のEVカーシェアリング事業を立ち上げる。2022年住友商事(株)入社、モビリティ事業企画部戦略チーム長。23年4月(株)Hakobuneを起業、代表取締役/CEO就任。



(株)Hakobune 代表取締役社長 高橋 雅典 氏

や所得の県別格差が開いていきますので、それを何とかしないといけません。地方創生時代から何も変わっていないのです。私どもの提案するシステムを導入することで車の経費が落ちれば、実質賃金が上がることになります。自然が豊かで住みやすい地方で暮らすことが可能になるのです。

菅原 この三つの課題とビジョンにはとても共感を覚えます。地域中小企業の賃金をいかに上げるか、とても重要です。それが未来を創る子

ども達のためになります。

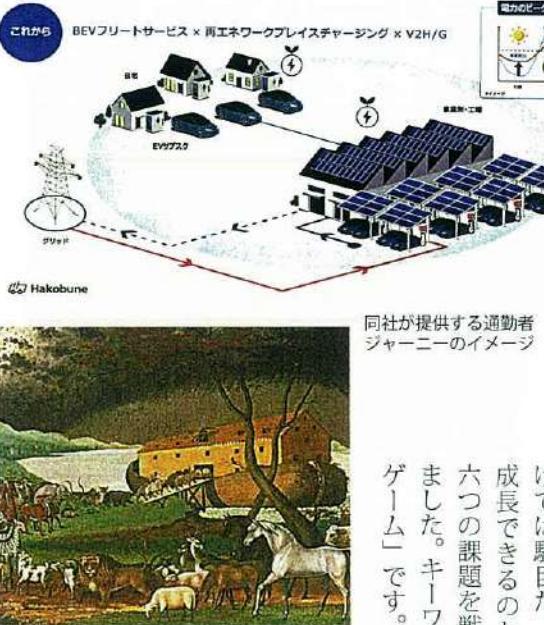
「若手経営者は助け合う精神で地方の課題解決を」

菅原 ところで、仙台をどのように見てていますか。

高橋 この町に住みたいと思ったのが仙台、福岡、北海道です。仙台はほどよい経済的規模と自然があるからです。仙台は東北ばかりではなく、日本を引っ張っていく使命があると思います。菅原さんのような若い経営者層がこれからを作ります。



東京・Hakobune本社で



「EVを主軸に、企業、個人、社会に利益を還元する」システム
菅原 高橋さんは、通勤用電気自動車(EV)のレンタル・リースを

主軸に、企業、個人、そして社会それぞれに利益を還元するという、新会社を23年に起業しました。経緯などは何だったのですか。

高橋 日産自動車でフェアレディZなどの商品企画を担当し、その後、経営企画時代に、車を売っているだけでは駄目だ、どうやつたら会社が成長できるのかという論議の中で、六つの課題を戦略に落とし込んでいました。キーワードは「エンジ・ザ・ゲーム」です。車は人と多くの接点

があり、例え時間コストを考えた移動会議用、顧客だけで不動産物件見学用、結婚式場の下見用、地方の乗合バスなど、さまざまな使い方を考

みました。

菅原 その後、住友商事モビリティ事業企画部戦略チーム長に転身しました。高橋 社長とのランチミーティングで構想を話したら「それだよ」と言われ、翌年には起業することになりました。ヨーロッパではEVがとても普及していましたし、かつて世界を席巻した日本の白物家電と同じように、このままでは自動車業界が衰退してしまうのではないかと、危惧を覚えていました。

連載 第15回
仙台、日本を拠点に、国内ばかりでなく、世界市場を見据えながら事業を開いている次代を担う若手経営者らに、活力ある仙台の経済活動や人材育成の在り方、そしてこれらの時代を生き抜くために必要な価値観や視点を、株清月記の菅原啓太専務が聞きます。

(株)清月記専務取締役
菅原 啓太氏

すがわら・けいた
1988年仙台市生まれ。中央大学経済学部卒業。(株)清月記専務取締役。2021年1月、公益社団法人仙台青年会議所第70代理事長就任。趣味は旅行。

仙台の次世代経営者 presence 対談

